



# 環境経営レポート 2022年度版



株式会社 東洋精機 製作所

## — 目次 —

1. 組織概要	・・・	3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	・・・	4
3. 環境経営方針	・・・	5
4. 環境経営目標	・・・	6
5. 環境経営活動	・・・	12
6. 環境経営目標の実績	・・・	15
7. 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・	16
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	・・・	22
9. 代表者による全体評価と見直しの記録	・・・	23

## 第1章 組織概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）

### （1）事業所名及び代表者名

株式会社東洋精機製作所 代表取締役社長 太田 好則

### （2）所在地

本社CSセンター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4



### (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

役職	部署	担当者
環境管理責任者	品質保証室	室井 一男
事務局	管理部	笹部 正雄
	品質保証室	溝口 義浩、根岸 靖博、齋藤 侑志

連絡先 : TEL 03-5915-5013 FAX 03-5915-5014 (品質保証室)  
TEL 03-3916-8188 FAX 03-3916-8313 (管理部)

(4) 事業内容 : 材料評価試験装置の開発・設計・製造・販売・修理

(5) 事業規模

[製品出荷実績] : 495台 (2022年度)

[従業員数] : 155人

## 第2章 対象範囲 (認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

認証・登録番号 : 0000165 (2005年4月取得)

### (1) 対象範囲

対象事業所

- 本社CS センター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4
- 東京工場 〒115-0051 東京都北区浮間5-4-23
- 舟渡サポートセンター 〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-2-6
- 大阪支店 〒564-0044 大阪府吹田市南金田2-14-35 (中央社ビル)
- 名古屋支店 〒461-0003 愛知県名古屋市東区筒井3-30-12

### (2) レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日
- ・発行日 2023年7月12日

### 第3章 環境経営方針（基本理念と環境活動方針）

#### 基本理念

当社は、地球環境問題が人類共通の重要課題との認識のもとに、全社をあげて環境との共生・調和に配慮した事業活動を自主的・積極的に推進し、環境負荷削減に向けて継続的改善に努めます。

地域の発展に協力して、地域社会との共生を図ります。また良き企業市民として社会貢献活動を行います。

#### 環境活動指針

当社は、材料試験機・測定機器の設計・開発・製造・販売・校正・修理などの事業活動を展開する中で、環境に対する「基本理念」を達成するために、一人ひとりが法を遵守し、モチベーションを高め、実効性のある環境マネジメント活動を全社で実践致します。

- ・製品の環境負荷の低減化に一層取り組みます。
- ・節電に努め、電気使用量の削減に取り組みます。
- ・ガソリン・水・梱包材など、使用する資源の削減に取り組みます。
- ・廃棄物の削減及び分別・リサイクル率の向上と、グリーン購入推進により資源の再利用に取り組みます。
- ・環境経営レポートを公表し、各階層との環境コミュニケーションを深めることに取り組みます。上記の環境方針・環境活動指針を全従業員に周知させ、環境目標を達成するよう推進いたします。

2023年6月9日制定

代表取締役社長 太田 好則



## 第4章 環境経営目標

### 4. 1 2022年度環境経営目標と実績の対比表

#### 4. 1. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		2021年度実績	2022年度目標 2021年度比総量で 1%削減	2022年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力 削減	東工	249,579 kWh	247,083 kWh	226,358 kWh	20,725kWh減少 9.3%減
	舟渡	143,384 kWh	141,950 kWh	118,789 kWh	23,161kWh減少 17.15%減
	本社	79,240 kWh	78,448 kWh	80,588 kWh	<b>2,140kWh増加</b> <b>1.7%増</b>
ガソリン 使用量 削減	東工	11,184 L	11,072 L	11,659 L	<b>587L増加</b> <b>4.25%増</b>
	舟渡	1,294 L	1,281 L	1,112 L	169L減少 14.06%減
	本社	9,722 L	9,625 L	9,144 L	481L減少 5.95%減
一般廃棄物 削減	東工	1,721 kg リサイクル率:62.3%	1,704 kg リサイクル率:63.3%	1,987 kg リサイクル率:86.2%	<b>284kg増加</b> <b>15.48%増</b> リサイクル率:22.9%増加
	舟渡	680 kg リサイクル率:83.6%	673 kg リサイクル率:84.6%	760 kg リサイクル率:82.1%	<b>87kg増加</b> <b>11.76%増</b> リサイクル率:2.6%減少
	本社	793 kg リサイクル率:63.8%	785 kg リサイクル率:64.8%	684 kg リサイクル率:78.4%	101kg減少 13.77%減 リサイクル率:13.6%増加
水使用量 削減	東工	1,097 m <sup>3</sup>	1,086 m <sup>3</sup>	2,628 m <sup>3</sup>	<b>1,542m<sup>3</sup>増加</b> <b>139.56%増</b>
	舟渡	730 m <sup>3</sup>	723 m <sup>3</sup>	732 m <sup>3</sup>	<b>9m<sup>3</sup>増加</b> <b>0.27%増</b>
	本社	700 m <sup>3</sup>	693 m <sup>3</sup>	687 m <sup>3</sup>	6m <sup>3</sup> 減少 1.86%減
容器・梱包材使用量 削減	2,372 kg	2,348 kg	2,298 kg	50kg減少 3.12%減	
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 56ポイント達成	総トータルで 248ポイント達成	総トータルで 192ポイント増加 342.86%増	
②個別機種評価	環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 2機種以上	環境配慮製品を 3機種設計完了	1機種増加	

※                      は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、当社「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

#### 4. 1. 2 大阪・名古屋支店

取組項目		2021年度実績	2022年度目標 2021年度比総量で 1%削減 ※名古屋水削減は50m <sup>3</sup>	2022年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力 削減	大阪	24,257 kWh	24,014 kWh	6,463 kWh	17,551kWh減少 73.36%減
	名古屋	14,295 kWh	14,152 kWh	15,250 kWh	1,098kWh増加 6.68%増
ガソリン 使用量 削減	大阪	9,334 L	9,241 L	9,928 L	687L増加 6.36%増
	名古屋	7,697 L	7,620 L	7,725 L	105L増加 0.36%増
一般廃棄物 削減	大阪	349 kg	346 kg	237 kg リサイクル率:57.2%	109kg減少 32.25%減
	名古屋	273 kg	271 kg	249 kg リサイクル率:60.1%	22kg減少 9.04%減
水使用量 削減	大阪	46 m <sup>3</sup>			数値化できないため節水取組 課題を決め、その活動を実施 する。
	名古屋	64.5 m <sup>3</sup>	50 m <sup>3</sup>	60 m <sup>3</sup>	10m <sup>3</sup> 増加 6.98%減

※            は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、当社「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

※ 大阪支店は2022年3月の拠点の移転に伴い、水の使用が共有となり、「水使用量」が把握できなくなった。また、空調設備の使用も共有となったため「購入電力削減活動」に関し、2022年度は実質としては「現状把握」となった。

#### 4. 1. 3 全社合計

取組項目	2021年度実績	2022年度目標 2021年度比総量で 1%削減	2022年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力 削減	510,755 kWh	505,647 kWh	447,448 kWh	58,199kWh減少 11.51%減
ガソリン使用量削減	39,231 L	38,839 L	39,568 L	729L増加 1.88%増
一般廃棄物削減	3,877 kg	3,839 kg	3,916 kg	78kg増加 2.02%増
水使用量 削減	2,638 m <sup>3</sup>	2,611 m <sup>3</sup>	4,107 m <sup>3</sup>	1,496m <sup>3</sup> 増加 57.29%増
容器・梱包材使用量 削減	2,372 kg	2,348 kg	2,298 kg	50kg減少 2.14%減
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 56ポイント達成	総トータルで 248ポイント達成	総トータルで 192ポイント増加 342.86%増
②個別機種評価	環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 2機種以上	環境配慮製品を 3機種設計完了	1機種増加

※            は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、当社「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

#### 4. 1. 4 全社のCO<sub>2</sub>排出量

2022年度排出量（全社）： 301,179kg-CO<sub>2</sub>

項目	使用量	排出 係数	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	CO <sub>2</sub> 排出割合	CO <sub>2</sub> 排出量 地域別合計		
電力 (kWh)	東工	226,358	0.470	106,388	0.353	200,095	/
	舟渡	118,789	0.470	55,831	0.185		
	本社	80,588	0.470	37,876	0.126		
	大阪	6,463	0.299	1,932	0.006	8,779	
	名古屋	15,250	0.449	6,847	0.023		
	合計	447,448		208,874	0.694		
ガソリン (L)	東工	11,659	2.320	27,049	0.090	50,843	/
	舟渡	1,112		2,580	0.009		
	本社	9,144		21,214	0.070		
	大阪	9,928		23,033	0.076	40,955	
	名古屋	7,725		17,922	0.060		
	合計	39,568		91,798	0.305		
LPG (kg)	東工	147.4	3.000	442	0.001	442	
都市ガス (kg)	名古屋	28.4	2.290	65	0.000		65
全社合計				301,179	1.000		



## 4. 2 2023年度環境経営目標

### 4. 2. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		2021年度実績	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標
二酸化炭素削減		275,739 kg-CO <sub>2</sub>	251,380 kg-CO <sub>2</sub>	267,971 kg-CO <sub>2</sub>	265,236 kg-CO <sub>2</sub>
購入電力削減	東工	249,579 kWh	226,358 kWh	2021年度の2%削減 244,587 kWh	2021年度の3%削減 242,092 kWh
	舟渡	143,384 kWh	118,789 kWh	2021年度の2%削減 140,516 kWh	2021年度の3%削減 139,082 kWh
	本社	79,240 kWh	80,588 kWh	2021年度の2%削減 77,655 kWh	2021年度の3%削減 76,863 kWh
ガソリン使用量削減	東工	11,184 L	11,659 L	2021年度の2%削減 10,960 L	2021年度の3%削減 10,848 L
	舟渡	1,294 L	1,112 L	2021年度の2%削減 1,268 L	2021年度の3%削減 1,255 L
	本社	9,722 L	9,144 L	2021年度の2%削減 9,528 L	2021年度の3%削減 9,430 L
一般廃棄物削減	東工	1,721 kg リサイクル率:62.3%	1,987 kg リサイクル率:86.2%	2021年度の2%削減 1,687 kg リサイクル率:64.3%	2021年度の3%削減 1,669 kg リサイクル率:65.3%
	舟渡	680 kg リサイクル率:83.6%	760 kg リサイクル率:82.1%	2021年度の2%削減 666 kg リサイクル率:85.6%	2021年度の3%削減 659 kg リサイクル率:86.6%
	本社	793 kg リサイクル率:63.8%	684 kg リサイクル率:78.4%	2021年度の2%削減 777 kg リサイクル率:65.8%	2021年度の3%削減 769 kg リサイクル率:66.8%
水使用量削減	東工	1,097 m <sup>3</sup>	2,628 m <sup>3</sup>	2021年度の2%削減 1,075 m <sup>3</sup>	2021年度の3%削減 1,064 m <sup>3</sup>
	舟渡	730 m <sup>3</sup>	732 m <sup>3</sup>	2021年度の2%削減 715 m <sup>3</sup>	2021年度の3%削減 708 m <sup>3</sup>
	本社	700 m <sup>3</sup>	687 m <sup>3</sup>	2021年度の2%削減 686 m <sup>3</sup>	2021年度の3%削減 679 m <sup>3</sup>
容器・梱包材使用量削減		2,372 kg	2,298 kg	2021年度の2%削減 2,325 kg	2021年度の3%削減 2,301 kg
環境配慮製品の開発・設計 ①全体評価		総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 248ポイント達成	総トータルで 210ポイント達成	2023年度完了後 決定予定
②個別機種評価		環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種設計完了	環境配慮製品を 3機種以上	2023年度完了後 決定予定

大阪・名古屋支店

取組項目		2021年度実績	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標
二酸化炭素削減		54,110 kg-CO <sub>2</sub>	49,799 kg-CO <sub>2</sub>	46,944 kg-CO <sub>2</sub>	46,485 kg-CO <sub>2</sub>
購入電力削減	大阪	24,257 kWh	6,463 kWh	2022年度の1%削減 6,398 kWh	2022年度の2%削減 6,334 kWh
	名古屋	14,295 kWh	15,250 kWh	2021年度の2%削減 14,009 kWh	2021年度の3%削減 13,866 kWh
ガソリン使用量削減	大阪	9,334 L	9,928 L	2021年度の2%削減 9,147 L	2021年度の3%削減 9,054 L
	名古屋	7,697 L	7,725 L	2021年度の2%削減 7,543 L	2021年度の3%削減 7,466 L
一般廃棄物削減	大阪	349 kg	237 kg リサイクル率:57.2%	2022年度の1%削減 234 kg リサイクル率:58.2%	2022年度の2%削減 232 kg リサイクル率:59.2%
	名古屋	273 kg	249 kg リサイクル率:60.1%	2021年度の2%削減 268 kg リサイクル率:62.1%	2021年度の3%削減 265 kg リサイクル率:63.1%
水使用量削減	大阪	46 m <sup>3</sup>	数値化できないため節水取組課題を決め、その活動を実施する。	数値化できないため節水取組課題を決め、その活動を実施する。	数値化できないため節水取組課題を決め、その活動を実施する。
	名古屋	65 m <sup>3</sup>	60.0 m <sup>3</sup>	2022年度の1%削減 59.4 m <sup>3</sup>	2022年度の2%削減 58.8 m <sup>3</sup>

備考

①2023年5月10日のエコアクション21全体会議により、トップマネジメントで決定された2023年度の目標は原則として、「2021年度総量比で2%削減」で活動することとしました。また2024年度の目標は原則、「2021年度総量比で3%削減」とした。

②二酸化炭素削減は、「東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター」は「購入電力量、ガソリン使用量及びLPG使用量」、「大阪支店、名古屋支店」は「購入電力量及びガソリン使用量」より算出した。

③大阪支店は2022年3月の拠点の移転に伴い、水の使用及び空調設備の使用が共有となり、「水使用量」及び「空調使用に対する電力使用量」の測定ができなくなった。その為、2023年度の水使用量削減活動は「課題を決めての活動」のみとし、「電力量削減活動」の目標に関して、「現状把握を行った2022年度の1%削減」とする。また、「廃棄物削減」については2022年度の結果が良好だったため、2023年度はそれを基準とし「1%削減」とする。

③名古屋支店は2021年6月の拠点の移転に伴い、水の使用が共有ではなくなり、使用量の測定が可能となった。その為、2023年度の「水使用量削減活動」の目標に関しては「現状把握を行った2022年度の1%削減」とする。

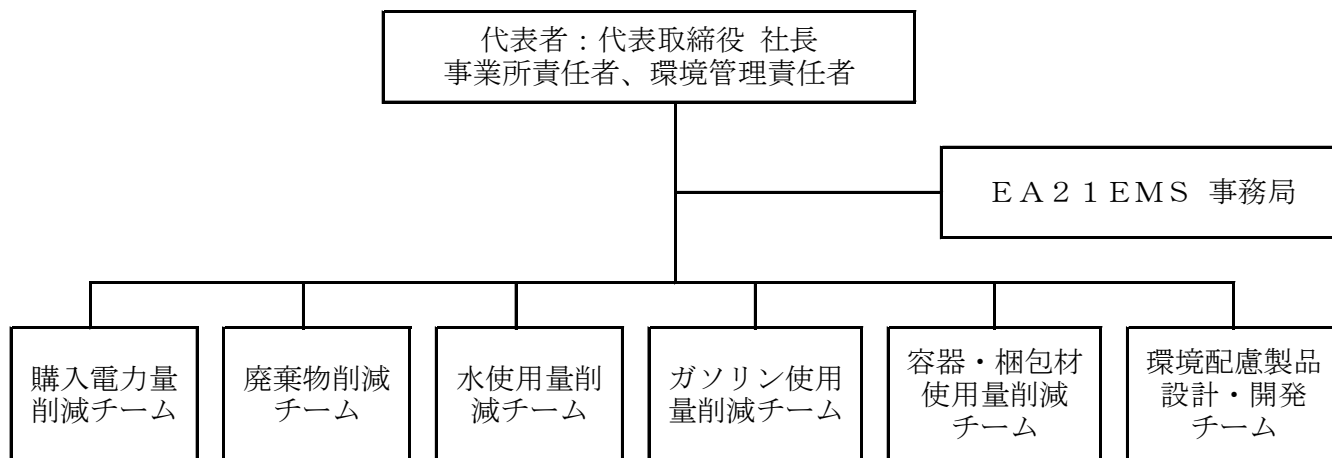
## 全社合計

取組項目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標
二酸化炭素削減	329,849 kg-CO <sub>2</sub>	301,179 kg-CO <sub>2</sub>	314,915 kg-CO <sub>2</sub>	311,721 kg-CO <sub>2</sub>
購入電力削減	510,755 kWh	447,448 kWh	483,166 kWh	478,237 kWh
ガソリン使用量削減	39,231 L	39,568 L	38,446 L	38,054 L
一般廃棄物削減	3,816 kg	3,973 kg	3,632 kg	3,595 kg
水使用量削減	2,638 m <sup>3</sup>	4,107 m <sup>3</sup>	2,536 m <sup>3</sup>	2,510 m <sup>3</sup>
容器・梱包材使用量削減	2,372 kg	2,298 kg	2,325 kg	2,301 kg
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 248ポイント達成	総トータルで 210ポイント達成	2023年度完了後決定予定 00
②個別機種評価	環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種設計完了	環境配慮製品を 3機種以上	2023年度完了後決定予定 00

## 第5章 環境経営活動

### 5.1 組織体制について

当社の環境経営方針【基本理念】に基づき、環境管理責任者・事業所責任者・EA21EMS事務局及び活動チームが中心となって環境負荷削減活動を進めると共に、環境経営システムの定着及び環境に関して遵法及び継続的改善に取り組みました。



※各役割については、弊社「環境経営マニュアル」による

### 5.2 各活動チームの2022年度の実績

全社の環境経営目標を達成するために、事業所責任者及び環境管理責任者のもと、実質的な活動として目標項目毎に「活動チーム」を編成し、1/4期毎に活動内容のP. D. C. A進捗管理を行い、年度末に活動結果と評価をまとめています。各チームの主要取組内容は以下の通りです。

#### (1) 環境配慮製品設計・開発チームの取り組みについて

年度活動計画	活動内容
①今期対象製品を選定する。 ②構想設計時に環境ポイントを計画する。 (右記、「構想時ポイント」) ③計画したポイントに従って設計を行うと共に、更なるポイント獲得(向上)にも取り組む。 ④開発完了時に「最終獲得ポイント」の集計を行い、結果についてレビューする。 ⑤進捗の確認については、(右記)にて四半期毎に担当者が「実績」及び「進捗状況/是正策」を記入し、責任者によるレビュー(評価/指示)を行う。	構想時ポイント ・新型落錘衝撃試験機 86ポイント ・セミオートメルトインデックサ 90ポイント ・B-8チャックRoHS指令対応 20ポイント 獲得ポイント ・新型落錘衝撃試験機 108ポイント獲得 ・セミオートメルトインデックサ 120ポイント獲得 ・B-8チャックRoHS指令対応 20ポイント獲得 ※合計3機種 248ポイント

## (2) 購入電力削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①空調管理：必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにエアコンの調節を行い、不要な場所、不要な時期（4～6月・10～12月等）は電源OFF	6～9月（夏季）：WBGT値警戒未満・12～3月（冬季）：19℃を目安に必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにする。エアコンの設定温度を夏季はWBGT値警戒未満に合わせて設定変更して、扇風機などの併用により冷気を廻す。冬季は加湿器の使用により湿度を上げて、体感温度を上げる。ブラインドの調節を行い、エアコンの効率を上げる。	●夏季：クールビズ ●冬季：衣服で調整する ●ポスターの掲示
②照明管理：休憩時間及び使用していないエリアの消灯	休憩時間の消灯及び使用していないエリアの消灯。	●休憩時間の消灯確認 ●蛍光灯の削減（間引き）
③待機電力の削減：IT関連機器・加工機及び製品検査不使用時（無駄な電源ONを回避）	就業後の不使用PCモニタの電源OFF。加工作業・製品検査で長時間持ち場を離れる場合、加工機、製品の機能を損なわない範囲で電源を切る。	●終業後の終夜運転機以外の停止確認
④共同施設・設備の電源管理の徹底を図る：トイレ・エントランス・食堂・会議室・コンプレッサー・サイクル変換機・恒温恒湿室など。	●コンプレッサー・サイクル変換機の管理は管理者を決めて手順書を定め、機械室扉に掲示する。 ●こまめに消灯するように啓蒙	●各所消灯・終業後のコンプレッサー・サイクル変換機の機械室の確実な電源OFF確認
⑤社内パトロールの実施	パトロールを実施し、使用していないエリアの消灯、エアコン設定温度などの確認を実施する。	●節電チェック対策表に確認内容記載

## (3) 廃棄物削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①各フロアでゴミ廃出量の記録を取り、月の集計を掲示して目標達成の意識付けを図る。	エントランスに設置された「はかり」で担当者が排出重量を記録する。週末に小集計と月末に全体の集計を行い、排出状況を毎月掲示する。	●担当者に適切なシールを貼るよう指導 ●ゴミ出しの手順書ポスターの掲示
②資源ゴミを一般廃棄ゴミに出さない様に分別監視し、リサイクル対象品と廃棄物の分別の徹底を図る。	一般廃棄物の分別を確認し、資源ゴミは資源回収用箱に入れさせるよう指導を行う。	●分別をメール・朝礼などで啓蒙 ●ポスターの掲示
③資源ゴミ（ダンボール・コピー用紙・新聞・カタログなど）の引き取りを回収業者に依頼し、質量を測定する。	ダンボール保管場所が一杯になったら管理部に連絡し回収業者を呼ぶ。分類別に質量を測定し記録する。	●質量を記録する。
④リサイクルの種類を増やし、一般廃棄ゴミを削減する。	更にリサイクルできるものをピックアップし回収のルールを作成する。	●リーダー、メンバーが中心となり、書類リサイクルの啓蒙、朝礼での伝達
⑤産業廃棄物の処理を適切に行う。	4半期ごとにマニフェスト管理票を確認する。「産業廃棄物顧客引取品管理簿」で、排出内容と質量を記録する。	●半期ごとに適切に記録されていることを確認する。

#### (4) 容器・梱包材使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①梱包材の使用量の確認	梱包材の使用量の把握する。	●梱包材の使用量を記録する。 ●アルミケースの使用を啓蒙する。
②外部より持ち込まれる製品・部品に関して納品に使う通い箱の奨励を図る。	通い箱に変更できる購入品、定期荷物を特定して奨励する。	●啓蒙活動を行う。
③梱包材のリサイクルの徹底	●ポスターにて「梱包材のリサイクル」を徹底させる。 ●使用部署への周知徹底	●ポスターの掲示 ●使用部署への啓蒙

#### (5) ガソリン使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①車をできる限り使用しない	車での長距離移動をできる限り行わず、公共の交通機関を利用する。都内の公共交通機関で済む場合は、可能な限り使用しない。	●朝礼にてアナウンス
②空気圧をチェック	給油時に、タイヤの空気圧をチェックする。	●自動車運行日報にチェック欄を設け、空気圧チェック実施を管理する。
③車の荷物をできる限り軽くする。	荷台に不要な物を置かない（降ろす）。	●5S活動にて実行
④ガソリン使用量削減のための啓蒙を行う。	ポスター、回覧、朝礼にてエコ運転を啓蒙する。	●エコドライブ10のすすめ掲示 ●安全ドライブ5箇条掲示

#### (6) 水使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①洗面所止水栓の調節	必要最低限の流量に調節する。 (事例：ハンドル全開時流量蛇口全開で約2～30/分に調節（手洗いで適切な流量約40/分）)	●随時、流量を確認し、調整を行う。
②器具のチェック	水漏れがないか各器具をチェックし、改善を図る。	●蛇口の点検、水漏れ箇所の点検
③垂れ流しの防止	水道の垂れ流しの防止を徹底する。ポスターにて「節水」の啓蒙を行う。	●ポスターの掲示。
④毎月、水道メータを記録する。その際、メータの増減から明らかに異常であると判断した場合は調査する。	毎月の水道使用量を記録し、問題があった時は原因究明及び適宜チェックを実施する。	●蛇口の漏れ点検など。



## (7) グリーン購入取組チームの取組について

年度活動計画	具体的展開
グリーン購入品の推進。	社内消耗品においてグリーン購入を推進、その記録を残す。

## 第6章 環境経営目標の実績

### 6.1 環境負荷抽出結果報告

全社（東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター及び大阪支店・名古屋支店）における二酸化炭素排出量、廃棄物最終処分量、総排水量、及び資源（製品の原材料など）利用量の過去2年間の実績と今年度の結果は下記の通りです。

項目		単位	2020年度	2021年度	2022年度
温室効果ガス 排出量	二酸化 炭素	kg-CO <sub>2</sub>	301,213	329,849	301,179
物質使用量	資源 投入量	t	82 (77tは主力製品生産量)	72 (67tは主力製品生産量)	74 (69tは主力製品生産量)
水資源投入量	上水道 使用量	m <sup>3</sup>	3,594 (名古屋支店を除く)	2,638 (名古屋支店を除く)	4,107 (大阪支店を除く)
総生産販売量	主力製品販 売総重量	t	77	67	69
	容器・梱包 材使用量	t	4.7	2.4	2.3
廃棄物量 (一般廃棄物)	最終 処分量	t	3.74	3.82	3.92
廃棄物量 (産業廃棄物)	排出量	t	20.1 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>	10.7 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>	7.9 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>
水資源投入量	下水道 使用量	m <sup>3</sup>	3,594 (名古屋支店を除く)	2,638 (名古屋支店を除く)	4,107 (大阪支店を除く)

- 物資使用量は、総製品販売量に紙購入量を加算した値である。
- 容器・包装は、段ボール・エアパッキン・テープ等で、製品出荷時に使用するものである。
- 廃棄物（一般廃棄物）最終処分量は、可燃ごみ、不燃ごみ、金属加工屑、廃プラスチックなどを合計した値である。
- 水資源投入量と総排水量は、同じとした。

## 第7章 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### 7.1 各チームの年度末評価と事業所責任者の評価

#### 環境配慮製品設計・開発チーム

2022年度は、3製品に取り組みました。

製品名：①新型落錘衝撃試験機

全体で108ポイント達成

②セミオートメルトインデックサ

全体で120ポイント達成

③B-8チャック

全体で20ポイント達成

#### ①新型落錘衝撃試験機

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
容積削減	B	6	<u>28ポイント</u> Bクラス(2点)×14ポイント	-60%削減
グリーン購入	(主力26製品以外の総合カタログ掲載製品)	20	<u>20ポイント</u> Bクラス(2点)×10ポイント	アルミフレーム使用
RoHS指令対応		60	<u>60ポイント</u> Bクラス(2点)×30ポイント	材質、表面処理、購買品

#### ②セミオートメルトインデックサ

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
RoHS指令対応	A (主力26製品)	90	<u>120ポイント</u> Aクラス(3点)×40ポイント	材質、表面処理、購買品、はんだ

#### ③B-8チャック

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
RoHS指令対応	C (総合カタログ掲載製品以外)	20	<u>20ポイント</u> Cクラス(1点)×20ポイント	材質、表面処理

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
環境配慮製品	今期、新たな枠組みとしてRoHS指令を追加したことにより、積極的に既存製品からもポイントを獲得することが出来、進捗度としましては100%を超える結果となりました。	少しずつ工夫をして取り組みが成されています。既存製品の評価もよい取り組みだと思います。

## 東京工場

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	年度総括：目標（247,083kw）に対し、226,358kwで8.3%の削減であった。今期は前年度同様コロナウィルスによる影響（換気等）があった中、社員の協力とエアコンの交換により大幅な削減に繋がったと考えられます。	地道な活動ではあるけれども、妥協することもなく真剣に真面目に取り組んでいたことを高く評価します。
廃棄物削減	リサイクルごみ排出量が、20年度実績：3196kg、22年度実績：3384kg（金属・木除く）となり増加しました。一般ごみ排出量は、21年度実績：1720.94kg、22年度実績：1987.41kgで増加（117%）の結果でした。	活動内容は理解して計測など問題なく行われています。あとは独自の視線をもって活動して行ってください。
水使用量削減	ストAR-Tの検査の為12m <sup>3</sup> /hの流量で水道水が使用されていた。流量を減らしたが装置の流量不足アラームが出るため、2m <sup>3</sup> /hで運転しており、3月は924m <sup>3</sup> 、上下水道従量料金で30万円ほどになる。この件が有るため、年度の削減実績は達成不可能となった。 HDT検査場に量水器を付けるにはバルブが付いてないため東京工場全体の水道を止める必要がありタイミングを見て取り付ける。	検査のための使用増は仕方がない。装置が運転できる下限値に切り替えたのは良いと思います。
ガソリン使用量削減	2021年ガソリン量1%削減目標でしたが4.3%増加となりました。また、走行距離5.3%増加、燃費3.3%悪化となりました。 国土交通省の交通関係統計資料では、1日1車当たり走行キロ平均が2021年20.88km、2022年21.48kmと2.87%増加となっており、全国的に交通量が増えていることが分かります。 交通量増加による渋滞などの影響は燃費やガソリン量に影響を与えます。 社会情勢による影響にも対応すべくハイブリット車のリースを積極的に推進してまいります。	使用状況を見てハイブリッド車への入替を推進して下さい。

舟渡サポートセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	2021年度実績より17.2%、目標より16.3%削減出来た。平均気温が1.63℃高かったことはエアコン消費電力を抑えた要因の一つですが、地球温暖化が現実となっておりCO2削減は急務です。年間で節減できたことは社員の節電努力、エアコンの間引き運転をやめた事と入れ替えによる節電効果等も大きく寄与しています。引き続き新型コロナウイルス対策の換気に留意しつつ無駄な消費を抑えていきます。	今期は各製品(オープン、アトラス各種)の消費電力を把握出来たことで、一般電力消費と製品検査による電力消費の区別ができ精度の高い電力管理が可能となったと考える。その成果が16.32%削減に繋がったと評価します。
廃棄物削減	今年度は昨年度より売上が上がったことにより一般廃棄物の量が増加したと考えられます。分別されていない場合にはその都度朝礼にて啓蒙。	最終四半期に於いても取り組みの成果はあまり窺えない。現状の取り組みではこれが限界ではないかとも考える。
水使用量削減	概算内訳【ウエザオメータ出荷台数13台×(約40m <sup>3</sup> ) + UVTest 3台×(約20m <sup>3</sup> ) + 生活用水(12ヵ月×約10m <sup>3</sup> ) = 700m <sup>3</sup> 】概算も実績の736m <sup>3</sup> に近い数値となった。目標数値723m <sup>3</sup> には届かなかったが、今年度の数値をベースに取り組んでいきたい。	前年比の出荷台数が少なかったにも関わらず目立った削減に繋がらなかった要因をやる必要あり。ある意味、詳細に管理出来ている結果であり、これを今後の参考に活用して下さい。
ガソリン使用量削減	11120と言う結果となり-1820削減、目標達成。 車種別で昨年と走行距離を比較した所、二次外注廻りで使用している車の走行距離はほぼ変わらず、使用頻度の少ない車の走行距離が約半分になった。1回当たり約100kmの大田区廻りが20回減ったのが要因となる(電車での移動で現物確認をしていたことがガソリン削減につながった) 来期はタイヤの空気圧管理を行い、また、自転車の保有台数も増えた為、東京工場への往来回数に変化があるか等確認出来ればと思っている。	1台は太田区方面の二次外注廻りがメイン、しかし車使用の精査が大きく削減の成果に繋がっていると判断できます。他1台は頻度が高く走行距離が少ないのは低燃費の条件には厳しく致し方なし。しかしながら、各四半期に於いて削減できたことは大いに評価出来ます。
容器・梱包材使用量削減	2月、3月にかけて売り上げが上がってきたため削減率が良くなった。特に2月はピッキング出荷による段ボール出荷は多く結果に反映された。ただ、4/4期はアルミケースの出荷案件が少なく梱包業者による出荷が多くなり良い結果が得られなかった。アルミケースによる出荷が年間16件のうち東日本で使用された数は年間で3件、関東圏内での使用が0件で来期は東京営業部にアルミケース使用を積極的にアピールし今後も梱包の削減に努めていく。	削減率が売り上げ(出荷数)に依存するため、精査したうえで削減率が悪くなったのであれば仕方なし。 来期はアルミケース、折りたたみプラケースの活用でダンボール削減に努めて下さい。また、ダンボールの再利用についても再度見直しを検討願います。

## 本社CSセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	目標未達。削減目標達成に向けてあらゆる節電策を実施しました。エアコン入替による省エネ化、エントランス照明のLED化、便座の待機電力OFF、エアコンの設定温度上限管理、間引運転、電子レンジ利用ルールの設定などを行いました。また一番節電に有効であるのは、利用する人への節電意識を啓蒙しEA担当者のみではなく皆で協力し節電を行うことが一番効果が上がることが分かりました。	残念ながら目標は達成できなかったが、年間を通じて常に削減する方法を探し、行動に移したことは評価できます。
廃棄物削減	2022年12月以降、引き続き大量の廃棄はなく、削減目標を達成できていると思います。とはいえ、削減率を下げたことに起因すると思われるため、手放しで喜べるものではないとも感じています。今後も廃棄物削減への取り組みを行います。 燃料使用とCO2削減を目的としているものの、2023年度には政府によるカーボンプライシング導入の動きもあるので、EA21との今後の関係がどのようになるのかも気になります。	目標廃棄量785.03に対して683.73の実績で目標を達成したことを評価します。これにより、微々たるものかもしれませんが環境保護に貢献したものと理解します。
水使用量削減	ギリギリではあるが、目標の2021年度比1%減を達成することができた。度々時短勤務を実施した2021年度の結果を基準値とすることにやや無理を感じないこともないが、徐々に節水の意識が高まっていることの願れと感じる。	目標達成に向けての目立った行動はありませんでしたが、目標を達成できたことは、毎月あるいは隔月の地道な取り組みによるものと評価します。
ガソリン使用量削減	年間目標値を達成し、前年度実績から6%近い削減となった。今後は営業部員も増え車の使用頻度の増加=ガソリン使用量増加が見込まれるため、引き続き注視したい。	前年度実績から約6%削減により目標達成したことを評価します。これにより環境にも貢献できたものと思います。

## 大阪支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	年度を通して安定した電力使用量のため、来期は本数値を元に目標を立てています。	来年度は、更に厳しくなりますが、更に意識付けをしっかりと行い使用量を減らしましょう。
廃棄物削減	年度通して活動取組み出来ており、新事務所であることもモチベーションとなっていると思います。来期も活動継続してまいります。	今年度の実績を考慮して、来期は減少するように取り組みましょう。
水使用量削減	引き続き節水に心がける。	引き続き啓蒙する。
ガソリン使用量削減	年度を通して、コロナの影響が減ったため外出頻度は明らかに増えました。来期は人数も増えている事も考慮しながら取り組み強化に努めてまいります。	来期は、タイヤ空気圧の管理、荷物積載量の管理をして少しでも使用量を抑える取組をお願いします。

## 名古屋支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	窓の開閉、扇風機やサーキュレーターの使用などで電力使用量の削減に取り組みましたが天候や事務所建屋の構造上、前事務所と比較すると電力購入量が増えてしまった。1年の電力購入量が把握できたので来年度以降、削減目標ベースを再構築し、使用量を無理せず削減していきたい。	業務効率を落とさない程度に、こまめな照明のON/OFF及び空調機の温度設定を行って下さい。
廃棄物削減	年間を通して昨年度実績から1割削減できた。製品出荷台数は特別少ないものではなく削減できたのは日常から分別、リサイクルする意識があるからだと思います。来年度も継続して取り組みたい。	可燃ごみの中にリサイクルできるものがまだまだ入っています。ミックスペーパー用のゴミ箱を設置しましょう。
水使用量削減	1年を通じ問題となる使用量、使用法は見られませんでした。使用量のベースが出来たので節水を心がけ来年度も取り組みたい。	検針のシステム上、これ以上の削減は難しいかもしれませんが、常に節水を心がけましょう。
ガソリン使用量削減	3/4期以降、営業部員の訪問件数が増え車両使用頻度も増えた。また滋賀県が名古屋支店管轄になったことにより昨年度より約1%使用量が増加。来年度以降もコスト意識を持ちガソリン使用量削減に努めます。	出掛ける際の効率を上げる＝ガソリン使用量削減だと思います。常に効率を心がけてください。



## 7.2 2023年度以降の環境経営目標の設定と展開について

### (1) 2023年度以降の「環境経営目標」の設定

2023年5月10日のエコ活動メンバーの全体会議の中で、2023年度の目標設定については、2021年度の実績値をベースとして、-2%の削減目標にて活動することを確認した。  
 ※但し、大阪支店の水使用量削減活動は「課題を決めての活動」のみ、また「電力量削減活動」の目標に関して、「現状把握を行った2022年度の1%削減」とする。  
 また、名古屋支店の水使用量削減活動の目標に関しては「現状把握を行った2022年度の1%削減」とする。

### (2) 環境配慮製品開発の目標設定

環境配慮製品設計・開発は目標210ポイントと設定し、当社の環境へのアピールポイントとして継続して取り組むこととする。

## 7.3 その他の環境活動

### (1) 教育・訓練の実施

内部監査員・従業員への教育・訓練の実施を行う。  
 全社員へ啓蒙を図るため、“エコアクション21（機関誌）”をEA21事務局からの発行した。内容は、SDGsを題材とした。

### ● 教育訓練計画表及び実施記録（2022年4月～2023年3月）

月	内容	対象	講師	実施記録
4	チーム活動の前年度総括 機関誌発行	各チーム 全社員	— 事務局	活動記録 機関誌
5	全体会議	全チーム員	—	議事録
6	緊急事態対応訓練 内部監査（EA21事務局） マネジメントレビュー	対象者 事務局 サンビ会	事務局 — —	活動記録 報告書 議事録
7	チーム活動の進捗管理(1/4期)	各チーム	—	活動記録
8	中間審査 機関誌発行	全社員 全社員	— 事務局	報告書 機関誌
9	特になし	—	—	—
10	チーム活動の進捗管理(2/4期)	各チーム	—	活動記録
11	特になし	—	—	—
12	特になし	—	—	—
1	チーム活動の進捗管理(3/4期)	各チーム	—	活動記録
2	特になし	—	—	—
3	特になし	—	—	—

## (2) 地域貢献

事業所周辺地域とのコミュニケーションの一環として、クリーンアップ活動（通勤経路及び事業所周辺のゴミ拾い）を本社CS、東京工場及び舟渡サポートセンターにて年に1回有志で実施していますが、本年度はコロナウィルスによる自粛要請により、中止となった。現在、新たな取り組みとりて舟渡サポートセンターにて「使用済み切手の収集」及び本社CSにて「ペットボトルのキャップの収集」をパイロット的に活動中。

『地域の環境を美化する地域社会への貢献は、環境活動の第一歩』と考え、今後も継続していきます。

## 第8章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

### 8.1 「環境法規制要求事項一覧及び遵守評価表」による自己チェック結果

当社が該当する、「環境基本法」から「労働安全衛生法」までの19法令の要求事項に関して、EMS事務局によりチェックを実施した結果、抵触する事項は0件であり、早急な改善を要する事項も0件でありました。また、緊急事態の発生も今年度も0件でした。

東京都知事宛に廃棄物処理法第12条の3第7項の規定に基づき、2023年4月3日に「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を提出しました。

フロン排出抑制法（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）により、業務用冷凍空調機器（当社ではエアコンのみ）については3ヶ月に1回チェックを行っています。

また、圧縮機電動機定格出力7.5kW以上50kW未満のエアコンについては業者による点検を3年に1度実施しています。

## 8.2 関連機関等からの外部チェック結果

当社が該当する、省資源と廃棄物、省エネと気候変動、自然保護等の各法規制等に抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関等からはありませんでした。

当社はトップダウンにより、**遵法精神に基づく環境経営活動及び企業活動を全従業員に強く意識付けています。**

## 第9章 代表者による全体評価と見直しの結果

6月8日の「サンビ会」（全役員・部長・次長の参加）において、2022年6月実施の内部環境監査の活動結果をふまえた報告を実施しました。その評価内容は以下の通りです。  
2022年度 EMSマネジメントレビューより抜粋。

### 9.1 環境活動報告及び見直しに関して

#### ① 内部環境監査・外部審査の結果及びフォローアップ状況

- 1) 内部環境監査は、全社を対象とし舟渡サポートセンターで2022年6月23日及び24日に実施。「不適合事項」について「是正処置書」を発行し品質保証室にて適切に管理対応している。
- 2) 中間審査を2022年8月25日及び26日に実施。また、指示事項・推奨事項は適切に管理対応している。

#### ② 社外コミュニケーションの取り組み状況(苦情を含む)

- 1) クリーンアップ活動は、新型コロナの状況により中止。使用済み切手の収集、ペットボトルキャップの収集をパイロット的に実施中。
- 2) 外部からの苦情はなく特段問題はない。

#### ③ 組織の環境パフォーマンス（教育訓練・社内啓蒙または目立った取り組み）

- 1) 社内啓蒙では、全社向けに機関誌（SDGs関連）を2回発行。
- 2) 社内出入りの配線業者に、廃棄物の分別について教育訓練を実施。

#### ④ 環境経営方針・環境経営目標及び取り組み状況の把握と評価

事業所責任者、サンビ会による取り組み及びその評価に関しては、特段問題はない。

#### ⑤ 是正処置及び予防処置の状況（緊急事態への準備含む）

- 1) 是正処置： ①の内容の通り、内部監査・外部審査の対応は管理されている。
- 2) 予防処置： 予想される新たな環境負荷や現状から大きな環境負荷に繋がるような事象はない。
- 3) 緊急事態の対応は、漏水事故、廃油流出の2訓練を隔年交互に緊急対応訓練を実施することに決定し、本年度は廃油流出緊急対応訓練を東京工場で実施。

## ⑥ 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ（アウトプット事項）

- 1) 目標値に関して、2022年度は2021年度の「-1%」とし、また2023年度は「-2%」、2024年度は「-3%」を基本とし、活動を実施する。  
⇒一部チーム以外は2021年度の-1%を目標として活動を実施した。
- 2) SDGsの基本情報を機関誌により、全社員へ少しずつ知恵を蓄えて頂きたい  
⇒2022年度は2回、SDGsを題材とした機関誌を発行した。

## ⑦ 環境側面に則した法律等の遵守状況

- 1) 「環境法規制等要求事項一覧及び遵守評価表」にてチェックを実施。  
新たな法規制などについても適宜、情報を入手し対応している。  
特段問題なし。
- 2) 東京都（全社）、北区（本社、東京工場）及び板橋区（サポートセンター）に提出する年度毎の調査表等は提出済。

## 9.2 全体評価に対してトップマネジメントによる全体評価と課題

ガソリン使用量削減については、2022年の新型コロナ感染者（国内）は、約2750万人で2021年の約18.4倍でした。ガソリンの使用率を2022年度と2021年度で比較すると、東京工場を除いて2021年度の方が、ガソリン使用量が多くなっています。東京工場の2022年度のガソリン使用量が多いのは、お客様から試験機の修理や校正を依頼され、技術部員が現地にて作業を行っているからと考えられます。

購入電力削減については、本社ではエアコン設置後、電力量が少しではありますが削減しています。東京工場と舟渡サポートセンターについては、エアコンの交換がかなり効果的となっています。大阪支店については、電力量が抜群に良いです。

水使用量削減については、舟渡サポートセンターにおけるアトラス製品のウエザオメータは、2021年度が18台、2022年度が13台出荷されました。出荷前検査において2021年度より2022年度の方が、台数が少ないにも関わらず水使用量が多いのが疑問です。今後、装置担当者と相談して疑問を解決します。また、東京工場の水使用量削減で、2022年度の後半に大量の水が、ストログラフAR-Tの検査で使用されました。

### ・指示事項

目標値に関して、2023年度は2021年度の「-2%」を基本とし、また2024年度は「-3%」を基本とし、活動を実施する。  
但し、大阪支店の電力削減、廃棄物削減及び名古屋支店の水使用量削減に関しては、2022年度の「-1%」とする。

以上：作成者 事務局 根岸 靖博